



だより



R6.2.6 Vol.36

うちの教頭先生！

うちの教頭先生、とても几帳面で、いろいろなこと、全てを丁寧に段取り、落ちなく進めてくれ、私的にはとても助かっています。子供のハッピーバースデイングを教員に行くとともに、ウクレレで盛り上げてくれ、うれしい限りです。

しかし、終わると、いつも浮かない顔。「どうしたん？」と聞くと、「いや、コードちょっと間違えて…」「いいやん！子供が喜んでたんやけん！」「それはいいんですが、コードが…。凹みます。」必ず何かに凹んでいます。

先日の中継発表会、前日も、夜遅くまで準備してくれ、当日も滞りなく進行してくれました。「さすがに今日は大丈夫やったやろ？」と声をかけると、「いやダメでした、紹介するとき、やまもとまさとをかんじやいました…」「全然気にならなかったけど？」「いやあ 凹みます…。」最早、凹むことに快感を覚えているのでは？とすら思います。(笑) 出会うことがあったらぜひ声をかけて下さい！「どんまい！」

ご理解・ご協力をお願いします

下の四方山話でも触れていますが、コロナ禍が明けたことや環境教育推進事業指定校になったこともあり、本年度は、普段の学習以外にも様々な体験活動に取り組んでいます。予定通り進むことが理想ではあるのですが、外部の方が関わってくると、どうしても急な変更等が出てくる場合があります。また、こちらのミスで、下校時間等、変更が重なることがあり、保護者の皆様にはご迷惑をおかけしていること、申し訳なく思っています。

なるべく、そのような変更が出ないように、打ち合わせをより綿密にしたり、ケアレスミスをなくしたりしていきたいと考えています。

これからも本校教育へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

四方山話令和5年度 ver.其の三十六(行事目白押し！です)

校報の予定表を確認いただくと気付かれると思いますが、2月も行事目白押しです。先日行った、ちりめんモンスター(5年生)に始まり、5日のキノコ学習(全校)、6日のおはぎ作り、薬物乱用防止教室 etc.etc.

子供たちは楽しい毎日となりますが、教師は連絡・調整・指導内容の確認、共通理解等々、忙しさに追われます。普段通りの授業をする方が、肉体的にも精神的にも負担は軽いです。でも、知らないことを体験する、経験する活動の大切さを教員は十分、分かっていますので、敢えて忙しさの中に身を投じます。そこが業務過多と言われる原因になっている面もあり、校長としては、悩ましいところです。(すまんがやってくれ…)

先日の環境教育推進事業の研究中間発表会、前号でも触れましたが、子供たちの頑張りは見事でした。「石城の子供たちの表現力、すごいですね！」というお褒めの言葉もたくさんいただきました。その集会の中、米作りの中心となって関わっていただいている井関さんに講評をいただきました。話の中、「石城はね、風が見えるんよ。」そんな話がありました。初夏の小麦畑を風が通る時、風が穂を揺らしながらこっちに向かってるのが見える。風が来た時の「ブファッ！」って感じ…。その話をされている時、私の中で「あ！」とある風景が浮かびました。私は釣りが好きで、よく船で海に出ます。広い海原にいと、向こうの方から風がやってくるのが見えるんです。小麦の穂ではなく、さざ波が迫ってくるんですね。そして、まさに「ブファッ！」とくる感じ。「ですよね～！！」と思わず、講評中の井関さんに話しかけそうになりました。(笑)

なぜ、教師が体験活動を大事にするのかが、改めて分かった瞬間でもありました。全く同じ体験や経験をしていなくても類似体験をしていると、相手の体験が手に取るように分かる瞬間があります。自分の経験と相手の経験が重なった時、本当の共感が生まれるのではないかと感じます。

例えば、大地震を経験したことがなくても、自分の何かの経験と重ねて、相手の気持ちを慮ることができる。そんな子供たちを育てたいと思っています。これからも職員一丸となって頑張っていきます。